

様式2－1 評価結果のまとめ

都道府県名	北海道		市町村名	名寄市		地区名	中心生活交流拠点地区			面積	105ha	
交付期間	令和4年度～令和6年度		事後評価実施時期	令和7年度		交付対象事業費	2,164百万円		国費率	49.50%		
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 市道改良事業(2路線)、地域生活基盤施設(市民駐車場)、誘導施設(こども発達支援センター、認定こども園)、既存建造物活用事業(子育て世代活動支援センター(こどもの遊び場))									
		提案事業	なし									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		提案事業										
	新たに追加した事業	基幹事業	誘導施設(元地の管理の適正化)			認定こども園に統合された西保育所跡地の元地管理の適正化			なし			
		提案事業	なし									
	交付期間の変更	当初	令和4年度～令和6年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響							
		変更	-									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	幼保連携型認定こども園等利用児童待機人数	人	6	R3	0	R7	0	○	ありなし	保育所再編により、待機児童の解消に繋がった。	
	指標2	中心市街地の活気とにぎわい	点	2.21	H30	3	R7	2.81	△	ありなし●	こどもの遊び場の利用者が年々増加しており、目標値には届かなかったが、中心市街地のにぎわい創出に繋がっている。	
	指標3	生活道路の安全性・快適性	点	2.86	H30	3	R7	2.68	×	ありなし●	市内道路は未舗装や経年劣化等で損傷している箇所が多く満足度が低い結果となった。	
	指標4	人口減少や少子高齢化に対するの不安解消	%	42.4	H30	30.0	R7	81.1	×	ありなし●	予想以上に人口減少や少子・高齢化が進んだことにより将来に不安を感じている割合が増加する結果となった。	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	こどもの遊び場利用人数	人	23,647	R4			27,182			施設整備により、利用者は増加している。	
	その他の数値指標2											
その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況												
5)実施過程の評価			実施内容			実施状況			今後の対応方針等			
	モニタリング					都市再生整備計画に記載し、実施できた						
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した						
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	官民連携による取組					都市再生整備計画に記載し、実施できた						
都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した												
都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった												
持続的なまちづくり体制の構築					都市再生整備計画に記載し、実施できた							
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							

様式2-2 地区の概要

中心生活交流拠点地区(北海道名寄市) 都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：都市機能集約と住環境向上による魅力ある中心生活交流拠点の実現 目標1：子育て支援施設の再編・複合化による子育て環境の向上 目標2：魅力ある滞留空間の創出 目標3：居住機能の強化による住みやすさの向上		幼保連携型認定こども園等利用児童待機人数	単位：人	6 R3	0	R7	0	R7	
		中心市街地の活気とにぎわい	単位：点	2.21 H30	3	R7	2.81	R7	
		生活道路の安全性・快適性	単位：点	2.86 H30	3	R7	2.68	R7	
		人口減少や少子高齢化に対するの不安解消	単位：%	42.4 H30	30.0	R7	81.1	R7	

まちの課題の変化

- 市内保育所とこども発達支援センターを再編・複合化による更新をしたことで、安全性の確保など子育て支援の都市機能強化を図ることができ、待機児童問題も解決することができた。
- こどもの遊び場の利用者は年々増加しており、中心部におけるぎわいの創出に繋がっている。
- 道路や駐車場を整備したことによって、安全性が向上した。

今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)

- 整備した施設について、地域住民等の利用しやすい環境づくりやサービス提供に向けた維持管理を行う。
- 中心市街地の更なる活性化や人口密度を維持するため、老朽化した公共施設の再配置や商店街やまちづくり会社と連携した取組の検討を行う。
- 市内道路については、未舗装や経年劣化等で損傷している箇所が多く、市民からの要望等が絶えない。生活道路の安全性・快適性の満足度向上には、適時修繕を実施するとともに未舗装道路の整備を計画的に行う。
- 本計画の施設整備では直接人口減少、少子高齢化への不安解消に結びつけることが難しかったため、ソフト面を含めた施策の検討が必要。